

薬史レター

日本薬史学会

J S H P



第 83 号

2020 年 3 月

日本薬史学会 2020 年度の主要行事のご案内

編集委員長 小清水敏昌

令和の時代が始まりました。これからどのような歴史が積み重ねられていくのか興味のあるところです。そんな中、本年 1 月頃に中国から拡がった新型コロナウイルスによる感染症が世界中に蔓延しています。

感染拡大防止の観点から、例年行ってきた 4 月開催の本学会公開講演会・懇親会を中止することを常任理事会で決定しました。ただし、下記の要領で 4 月の理事・評議員会および総会は開催されます。

特に、本年 4 月は役員の任期満了期に当たるため、総会で新しい方針が示されます。総会および下記の各行事に多数の会員のご参加をお待ちしています。

1. 日本薬史学会総会の開催について

日 時：2020 年 4 月 18 日（土）

会 場：東京大学大学院薬学系総合研究棟（龍岡門そば）

・理事／評議員会（10 階 大会議室） 12：30～13：30

・総 会 （同上） 13：40～15：00

（公開講演会・懇親会は中止）

2. 日本薬史学会 2020 年会の開催について

日 時：2020 年 10 月 24 日（土）

年会長：松崎 桂一 理事（日本大学薬学部生薬学教授）

会 場：日本大学薬学部校舎

3. 第 13 回柴田フォーラムの開催について

時 期：2020 年 11 月下旬開催予定

会 場：大阪市内予定

編集委員会からのお知らせ

1. 薬史レターに「薬史の昔を語る」のコラム欄を新設致します。

本学会が 1954（昭和 29）年に産声を上げて、本年で 66 年が経過します。薬を巡る様々な出来事、本学会に関する過去の数多くの話題、関連するエピソードなど会員からの投稿をお待ちします。文字数は 800 字程度でテーマは自由です。

2. 「薬史学雑誌」に英文の投稿原稿をお願い致します。

本学会誌は米国 NLM に採録されていましたが、評価基準が厳しくなり残念なことに昨年除外されました。国際色を打ち出す意味から英文論文の投稿を是非お願い致します。また、J STAGE に加入する予定です。ここに登録されると、世界中からアクセスされ薬史掲載論文が国内外で広く利用されます。

日本薬史学会2020年会のお知らせ

年会長 日本大学薬学部教授 松崎桂一

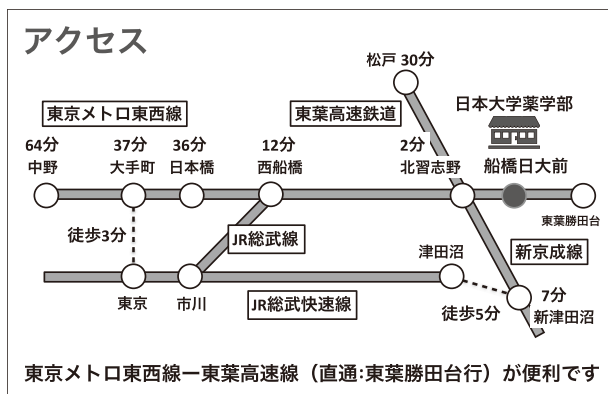
開催日：2020年10月24日(土)

会場：日本大学薬学部

(千葉県船橋市習志野台7-7-1)

アクセス：東葉高速鉄道「船橋日大前」駅下車、
西口より徒歩約7分

今回、年会を開催させていただくことになり、大変光栄であると同時に重責を感じております。本学部は、昭和27年(1952年)に工学部薬学科として産声をあげ、昭和63年(1988年)に薬学部として分離独立した、他に類を見ない歴史を有する薬学部であります。また、所在地である千葉県は、戦後、東京のベットタウンとして発展してきましたが、所々に多くの歴史的建造物や史跡が多数残されております。



す。今回の年会を通じて、皆様の素晴らしい研究成果を多く発表していただけるばかりでなく、本学部ならびに千葉の歴史に触れていただければと思います。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

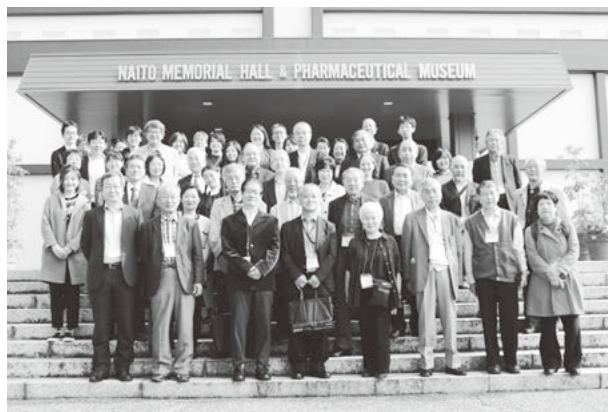
日本薬史学会2019年会(岐阜)の報告

年会長 森田 宏(内藤記念くすり博物館)

日本薬史学会2019年会(岐阜)は、2019年10月26日(土)に午前10時より岐阜県各務原市にある内藤記念くすり博物館で開催しました。本年会は年会参加者89名を数えたほか、一般参加者を含む公開講演会出席者250名、情報交換会には53名と多数のご参加をいただきました。また、口演発表は14題、ポスター発表は13題と多数の応募がありました。

特にポスター発表については、口演からの変更、また時間を区切った発表にも快くご協力いただき、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

今回の発表は各発表者の方々のご専門分野に加え、内藤記念くすり博物館で開催ということも踏まえて、特別展「薬局方のあゆみ」や展示資料・碧素(ペニシリン)に関するテーマ、大同薬室文庫、清水藤



太郎先生の業績を採り上げていただいたり、薬史学教科書シンポジウムとの関連で薬局や薬学校に関するテーマ、現代の医薬品についての発表も多く見られました。

シンポジウム薬史学教科書は、座長に森本和滋先生(国立医薬品食品衛生研究所(NIHS)生物薬品部)をお迎えして45分というタイトな時間の中で実施しました。森本先生からは2005年と2017年に実施された薬史学教育に関する二つのアンケート調査の報告が示している事のエッセンスを開始のお言葉としていただきました。その後パネリストの河村典久先生(金城学院大学)から薬学の方向性を示す「薬史学教科書の理念・哲学」について、小清水敏昌先生(薬史学教科書準備委員長)から委員会での「薬学教育モデル・コアカリキュラム」と連携した内容の「薬史学教科書取り組み状況」、船山信次先生(日本薬科大学)から実際の教育現場における「薬史学教科書発刊に当たっての要望」をそれぞれ発表いただきました。

なお、エーザイ株式会社執行役員木村禎治氏による

特別講演「認知症治療剤研究開発の潮流」、くすり博物館館長の森田宏が「認知症になりにくい食生活」を市民公開講座として開催しました。

口演発表・ポスター発表ともに質疑応答が多く、熱気のある議論は年会終了後の懇親会においても続きました。

翌日は「薬史ツアー」と題し、内藤記念くすり博物館探訪と国宝犬山城、下山順一郎碑巡りを実施しました。博物館の概要説明に続き、展示室、図書館、薬草園を案内付で見学した。図書館の展示スペースでは、特別に下山順一郎博士・木村雄四郎先生・清水藤太郎先生にちなんだ書籍と資料、および普段は非公開の和装本や資料を公開しました。その後貸切バスで昼食場所へ移動し、犬山城とその前に設置された下山順一郎碑を見学しました。

年会運営に際しては皆様からの多大なご協力に感謝申し上げます。

2020年年会は、日本大学薬学部(年会長:松崎桂一教授)で開催されます。千葉でお会いするのを楽しみにしております。

令和元年度「六史学会合同12月例会」報告

常任理事 御影雅幸

毎年12月の第三土曜日に行われる医薬学関連6史学会による合同例会が、12月21日に順天堂大学御茶ノ水センタービルで行われた。参加者数は73名。演題と演者(敬称略)は、「日本における牛白血病の発生と拡散の歴史」(日本獣医史学会:小林朋子)、「なぜ戦後、医学部と歯学部のみが6年制大学となれたか」(日本歯科医史学会:佐久間泰司)、「ドイツにおけるディアコニッセ養成を原点とした看護教育の歴史」(日本看護歴史学会:佐々木秀美)、「野中家蔵書中の浅田宗伯自筆書籍について」(洋学史学会:青木歳幸)、「ヴィクトリア時代イギリスにおける医師資格—高木兼寛の場合」(日本医史学会:永島剛)、「医家と神仙家と生薬の基源」(薬史学会:御影雅幸)であった。当番で本会が司会を務め、活発な質疑応答が行われ、有意義な会となった。以下、筆者の発

表内容を簡単に紹介する。

筆者はこれまでに10数種の漢方生薬について「傷寒・金匱」の時代から現代に至るまでの基源(生薬の原動植物の種類や薬用部位など)の変遷を論じてきた。これらの結果を総合的に解析した結果、医家(医師)と神仙家(不老長寿を目指す神仙思想家や食医など)の間に異物同名品が存在した生薬では、多くは前者が使用していたものが現代に伝承されているという新説を提唱するに至った。例えば、木通は現行の『日本薬局方』ではアケビ科のアケビなどの木質茎であるが、神仙家はウコギ科のカミヤツデの茎髓を使用していた。医家は自らが使用していたアケビの茎をカミヤツデ由来品と区別するため、原名の「通草」を「木の通草」の意味で「木通」に名称変更した。山茱萸はミズキ科のサンシュユの果実であ

るが、神仙家が使用していた山茱萸はバラ科のシナミザクラの実であった。連翹はモクセイ科のレンギョウの果実であるが、神仙家はオトギリソウ科の

トモエソウやオトギリソウを用いていた。人參はウコギ科の *Panax* 属植物の根であるが、神仙家はキキョウ科植物を使用していた。

第44回国際薬史学会に参加して

編集委員 久保鈴子

第44回国際薬史学会 (ICHP: International Congress for the History of Pharmacy) が2019年9月5日から8日までの4日間、アメリカ薬局方編纂200年に合わせてワシントン DC にて開催されました。テーマは「薬剤師と医薬品の品質」。会場は、老舗のキャピタルヒルトンホテル。参加人数は、23カ国から日本の参加者7名を含む約150人とのことでした。会場周辺には、ホワイトハウス、国会議事堂、リンカーン記念館、スミソニアン博物館・美術館などの見所がほどよい距離で点在する落ち着いた環境の中での学会でした。ホテルの2階フロア全てが会場に充てられ、口頭発表のための3部屋、ポスター発表の1部屋、開会式や基調講演・レセプションが行われる大会議室などが準備されていました。私は、国際薬史学会は初めての参加でしたが、アットホームな雰囲気の学会との印象を持ちました。

初日(5日)に登録を済ませて15:30からオープニングセレモニー、薬局方に関するパネルディスカッション、夕方には参加者の多くが集うウェルカムレセプションが開催されました。ウェルカムレセプションは、再会を喜ぶ人々、初対面で自己紹介し

合う人々で和やかな交流が行われて終了予定時間を超えての場となりました。

2日目から研究発表の開始です。オーラル会場では午前18題、午後13題の発表が登録されており、午後は小清水敏昌先生による印度大麻を原料とした明治初期の「喘息煙草」に関する発表がありました。各演者の発表後には質疑応答が活発に行われ、参加者の熱意を感じました。同日ポスター会場では33題が展示され、1時間半の示説時間には発表者と聴衆の議論がなされました。ここでは夏目葉子先生がインドの薬学発展に貢献した Harkishan 教授に関する発表をされました。ちょっと面白いポスターとして1926年から1946年のアメリカ映画に登場する薬局や薬剤師の姿を紹介した発表がありました。

3日目も午前中18題の様々な内容の発表が行われました。この日は森本和滋先生による日本発バイオ医薬品の FDA と EMA 承認に関する発表がありました。午後は ISHP の今後に関するパネルディスカッションなどが組まれていました。

この日の夕方は晩餐会が開催され、約80名の参加者が生バンドによる軽音楽の中、美味しいカリ



開会式写真



日本からの参加者7名の写真

フォルニアワインと料理を堪能しながら和気あいあいと時間を過ごしました。

4日目、私は午前中に帰国の途につきましたが、会場では午前中に口頭発表と、次回2021年開催予定のイタリア：ミラノでの再会を約束して11：00閉会となったとのことでした。

1) Dr.Jhon P. Swann との出逢いを感謝して

国際委員 森本和滋

44th ICHP では、夏目先生ご夫妻、小清水先生ご夫妻、久保先生、津谷先生と多彩な顔触れでした。初日午後の開会式前の Extended Executive Meeting に出席し、我が国のこの3年間の Newsletter への取り組みや、Research fellowship の議論では私の意見も出しました。今年は、フェローの応募も一件と少なく、「各国の若者の応募を是非多数お願いします」とのことでした。毎年締め切りは、8月末です。

5日の開会式から8日の Closing Ceremony まで、前列中央の席で、しっかり聞いて、質問もそれなりの頻度で遠慮なくしました。暖かい雰囲気の中で、初めての人間にも、排他的な雰囲気は一切なく、歴史を愛する人は、みなさん心豊かな方が多いことを実感しました。3日間一緒にテーブルで同席したイタリアの方が、2011年刊行の50頁にわたる自分の論文別刷りを謹呈してくれました。古典医学者C.ガレノスのヒポクラテスについてのギリシャ語のコメントを纏めた論文で、とても興味深い内容でした。

当方の Podium 発表は、7日午前11時40分から予定通り始まり、15分間少し前にプレゼン終了。5分間の質問では、FDA の Historian で大会役員の John.P.Swann 博士が、暖かい質問をしてくれました。私は「1990年から始まった ICH 会議で30年間醸成された ICH の friendship が第2の黒船をも乗り越えての我が国のバイオ医薬品の開発の現在があ

会場での真剣な議論の一方で、アメリカ薬剤師会本部へ移動しての講演とレセプションや数種類のオプションツアーの設定など、主催機関であるアメリカ薬史学会の多彩な計画により、参加者は充実した時間を過ごすことができました。

り、感謝している」と答えました。日本の出島について、講演後質問された米国の女性もおられました。座長が拍手して、聴衆も一緒に拍手してくれました。なお、発表の内容は、薬史学雑誌に英文で投稿し、1月8日採択され、6月に掲載予定です。

今回の ICHP では、John にお会いし、2年前の「フランスケルシー博士の生涯から教えられるもの」のタイトルでの薬史学雑誌に投稿の際に頂いた資料のお礼を言うことも大きな目的でもありました。彼は、なんと、大会役員で、座長やパネリストとで超多忙でしたが、初日にお会いし、それ以降、毎日色々立ち話をし、親交を深めることが出来ました。

次回45th ICHP ミラノにも体調が許せば、参加したいとの思いが与えられました。



会場で John と一緒に

2) 第44回国際薬史学会に発表の機会を得て

編集委員 小清水敏昌

2018年新潟で行われた日本薬史学会年会で私が「喘息煙草」について口頭発表をしました。前薬史学

会長の津谷喜一郎先生が海外の学会に発表しようとお声をかけて下さり、新たな情報を追加して2019

年9月 Washington, D.C. で開催された第44回国際薬史学会に東大助教の宮路天平先生との三人の連名で口頭発表をしました。

喘息煙草は印度大麻草を紙巻タバコ状にして明治初期から売薬として販売していたもの。その成分は cannabis で俗に云う marijuana。これを日本で考案したのは緒方洪庵の次男の緒方惟準でオランダのユトレヒト陸軍軍医学校に入学し帰国後に陸軍軍医として重要ポストを歴任。また、日本薬局方初版本の編纂委員を務める。その後、明治20年退官し大阪で緒方病院を開設。亡くなる1か月前にキリスト教に入信したという劇的な生涯を送った人物。洪庵の三男である緒方惟孝は幕命でロシアに留学したが後に薬剤師になり、兄の緒方病院の薬局長兼事務長になって兄を支えた。適塾で学んでいた小林謙三は東京・神田で薬舗を開業し、明治14年内務省から売薬として許可された喘息煙草を製造・販売した。印

度大麻草及び印度大麻エキスは日本薬局方の初版(明治19年)から昭和7年発行の第5版まで記載されていた。時の政府は、日露戦争の戦費調達のため明治37年に煙草を国管理とした専売法を定めた。以上が発表した概要です。

発表は学会2日目の午後から1人20分間で3人が cannabis のセクションを構成。100席ほどの会場がほぼ満席で私は3番目。4日間で口頭演題総数55題のうち7題が cannabis に関する演題で、参加された津谷先生のご推察通り、話題性が高く時宜を得た内容になりました。この国際学会は参加者が少ないせいかアットホーム的な雰囲気を感じました。

私にとって海外発表はもとより英語での発表は初体験とあって、不安でしたがお二人の先生方の熱心なご教示を得て、無事に終わる事ができました。人生の中で忘れることの出来ない貴重な経験をさせて頂き、両先生に心から感謝申し上げます。

3) 国際薬史学会 (ワシントン D. C.)でのポスター発表

広報委員 夏目葉子

2020年9月5日～8日、第44回国際薬史学会(International Congress for the History of Pharmacy)が、米国ワシントン D. C. のキャピタルヒルトンホテルで開催された。

開会式において、会長のアクセル ヘルムシュテッターは、今年は、アメリカ薬局方の制定200年目にあたることから、テーマは、「薬局方」、「製薬における品質管理」と「薬剤師」であると宣言した。そして、薬剤師が、全世代の人間の治療に必要とされることの重要性を薬学の実践の歴史から意見交換していきたいと述べた。

ポスター発表においては、33の作品が展示された。夏目は、現代インド薬学史の第一人者であり、米国での研究生生活を経験したハルキシャン・シン パンジャブ大学名誉教授について、現代インド薬学における貢献を薬化学者、教育者、薬史学者としての面から発表した。なお、アジアの薬学史に関する展示は本発表のみであった。

また、学会期間中には、国際薬史アカデミーの総会も、アメリカ薬剤師会本部で催された。入り口に

は、米国の薬剤師の倫理規定の碑とともに、薬剤師の使命が、人類のための創薬と人間への調剤であることを象徴する making pharmacy と名付けられた一対の像が厳粛に設置されている。さらに、その壁面全体には、2007年に米国ファイザー社により寄贈された、パーク・デービス社製の Great Moments in Pharmacy と称される各国の薬学発祥史のパネルの原物が訪問者を出迎えるように展示されていた。

総会においては、30年以上にわたりアメリカ薬史学会会長を務めたグレゴリー・J. ヒグビーがその



功績を称えられ、George Urdang賞が贈られた。屋上のテラスからは、ライトアップされたポトマック川とジェファーソン記念館、ワシントン記念塔が一望でき、参加者との交流の場となった。

なお、今回は、2021年にイタリア共和国のロンバルディア州にあるミラノ大学で開催される。テーマについては決定次第、国際薬史学会ウェブサイトにて公表される予定である。

関西支部だより

関西支部だより

関西支部事務局長 宮崎啓一

1) 第11回日本薬史学会関西支部研修会報告

2019年11月23日(土)、薬の神様“神農さん”を祀る“少彦名神社”を中心に、大阪道修町を挙げて執り行われた神農祭当日、標記研修会を大阪富国生命ビル(大阪駅前)4階「まちラボ」にて16時30分より開催した。

今回は、本会常任理事、日本薬科大学特任教授の船山信次先生により、“毒と薬の歴史を楽しむ”と題したご講演をいただいた。

船山先生は、会員各位ご高承のとおり、近年の毒物に絡む事件についてコメンテーターとしてマスコミに多々登場されるなど、薬のみならず毒の専門家としても知られ、また2007年に上梓されたご高著『毒と薬の世界史—ソクラテス、錬金術、ドーピング—』(中公新書)が最近ハングル版、中国語版として、それぞれ韓国、中国においても出版されるなど、薬と毒の歴史についても内外に幅広い研究成果を発信されている。

当研修会においては、主に1. 古代(太古～平安時代)、2. 中世(～江戸時代前)、3. 近世(江戸時代)および4. 近代～現代(明治以降)の4つの時代区分にてご紹介があった。

古代のエジプトのクレオパトラ7世(BC69～BC30)と毒ヘビをめぐるエピソードに始まり、近世ヨーロッパのドイツの薬剤師ゼルチュネル(1783-1841)による阿片からモルヒネの単離。それほど時期を置くことなく、インドの阿片がイギリスを経由して中国に流れ、やがて阿片戦争(1840-1842)の勃

発等々。明治以降における細菌学の勃興と発展に関連しては、コッホから北里柴三郎、さらには大村智先生につながる系譜のご紹介があり、先生が北里研究所にご勤務時代の上司、大村智先生についての当事者間でしか知り得ぬノーベル賞受賞当時の秘話のご披露もたいへん興味深いものがあった。世界史と日本史の間を横断しながら、毒と薬をめぐる、あたかも歴史を語る吟遊詩人さながらの船山先生の語り口を前にあつという間に講演が終わった。

当日は、京都薬科大学にて第52回日本漢方交流会学術総会が開催されており、本支部役員を含め常連の本会参加者数名の出席がかなわず、参加者の減少が見込まれたが、最終的には29名となり、懇親会(参加者25名)を含め盛会裏に終了した。

2) 第12回 日本薬史学会関西支部研修会 [開催予告]

日 時：2020年3月28日(土)

16:30～ 研修会

研修会終了後～ 懇親会

講 師：塩野秀作氏

(塩野香料株式会社 代表取締役)

演 題：道修町における香料取扱いの歴史(仮題)

会 場：大阪富国生命ビル(大阪市北区小松原町
2番4号、阪急梅田駅南側隣接)
4階「まちラボ」ルーム A

多くの皆様方のご参会をお待ちしています。

中部支部報告

中部支部長 河村典久

中部支部例会と講演会を開催しました。詳細については後日改めて報告します。

例会・講演会

日 時：令和2(2020)年2月8日(土) 14:00～16:30

場 所：金城学院大学栄サテライト Tel 052-955-8668

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目15番15号 CTV錦ビル4階

セントラルパーク地下街10A出口前

参加者：17名

演題① 日本の薬学を哲学する

名城大・薬 奥田 潤

演題② 丹波修治の新たな資料の紹介

圭介文書研究会 河村典久

「海外の薬史学会の今(4) イギリス」

国際委員会 但野恭一

国際薬史学会 (ISHP)には現在26か国の29組織が加盟しており、英国薬史学会 (1967年設立: British Society for the History of Pharmacy: BSHP)は主要メンバーの一つである。BSHPの2017年総会では50周年祝賀イベントが開催された。BSHPは学会誌「Pharmaceutical Historian」を四半期ごとに定期発行しており、下記のURLで見ることができる。
https://publikationsserver.tu-braunschweig.de/receive/dbbs_mods_65362

BSHP (会長 Peter G. Homan)の2018年の講演プログラムは2月に始まり、「東洋と西洋におけるビザンチン薬理学」と題された講演が、4月の創立51年目を迎えた総会では「ロンドン薬局方の翻訳における蒸留の Culpeper」、「18～19世紀の Bavaria と Austria の魔法の宗教的な薬のお守り」、「数世紀に

わたる美しい医学書と薬学書」、「薬局の範囲を定義する」等の講演、ブーツカンパニーアーカイブのツアー、音楽エンターテインメントが行われた。5月は「知識のリポジトリ: 独立したアイルランドの医療慣行に関するユニークな洞察を提供する学校の原稿コレクション」と題する講演が、6月には科学博物館の広範な医療工芸品のコレクション見学のため Blythe House を訪問した。10月には、「パーキンソン病を啓蒙したパーキンソン氏」の講演、11月には「薬物、貿易、帝国1650-1850」と題し、誉高い薬剤師会との合同シンポジウムが開催された。既存の Burnby Memorial Bursary と並び、薬剤師と薬史研究者による研究奨励を目的として、新しい Pharmacy History Project Grant を立ち上げた。今後のイベント・連絡先の詳細については www.bsphp.org をご覧ください。

薬史往来 木村雄四郎会長の時代

名誉会員 山田光男

はじめに

1982 (昭和57)年4月、薬史学会シンポジウム「日本薬学100年の発展と史的背景」を聞いて深い感銘を受け、薬史学会に入会した。

当時の学会運営

学会本部は神田駿河台の日本大学理工学部薬学科木村雄四郎会長の下で、同校助教授の滝戸道夫幹事が会員管理、会計の実務を担当されていた。会務は吉井千代田会長代行 (薬事日報社に在籍) が会務全体を運営し、薬史学雑誌 (以下薬史誌) の編集も担当されていた。ほかに非常勤の複数幹事が会務を分担していた。

私は当時編集の薬史誌30周年記念号の冒頭に、清水藤太郎博士が会員であった国際薬史学会 (米国) をはじめ欧州の各学会の祝辞を入手する業務を担当した。これが契機となって、10年ごとの薬史誌の記念号の冒頭に海外および国内学会からの祝辞が薬史誌60周年記念号まで掲載されるようになった。

薬史誌編集の紛糾

薬史誌の編集方針に対して、宗田一幹事 (大阪) から批判的内容の投稿が木村会長宛に送られ、そのまま薬史誌に掲載された。その趣旨は従来の薬史誌の報文は、「学術的記載」と「文学？

随筆的記述」が混在しているとの指摘であった。当時、同幹事は「日本薬学会100年史」の編集委員長だったので、薬史誌の編集にとっては重い指摘であった。随筆的記述と指摘されたのは、根本曾代子幹事で、「日本の薬学」(南山堂) ほかの実績をもっていたので、薬史誌への投稿もあった。吉井代行の編集方針は、投稿者の原稿は原文のまま収載するのが民主的であるとの基本方針で、この木村会長宛での投稿を原文のまま薬史誌に掲載したので、外部にも知れることになった。

私も東京大学薬学部の教授から質問された記憶がある。本項の詳細は2004 (平成16) 年発行の薬史誌50周年記念号を参照されたい。

薬史学会通信の発行

当会幹事会では、前項の反省から会員相互の交流を密にする目的で、「薬史学会通信」を新しく発行することになった。発刊にあたり木村会長から題字を頂き、1985 (昭和60) に第1号を発行した。

むすび

私の思い出は、薬史誌30年号に海外から初めて多数の祝辞を頂いたことである。70周年記念号の充実した内容での発行を期待する。

日本薬史学会編集委員会

編集委員長：小清水 敏昌

編集委員：荒木 二夫 久保 鈴子 齋藤 充生

薬史レター 第83号 2020年3月

編集人：小清水 敏昌 発行人：折原 裕

日本薬史学会 The Japanese Society for History of Pharmacy (JSHP)

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (財) 学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局

tel : 03-3817-5821 fax : 03-3817-5830 e-mail : yaku-shi@capj.or.jp http://yakushi.umin.jp
